

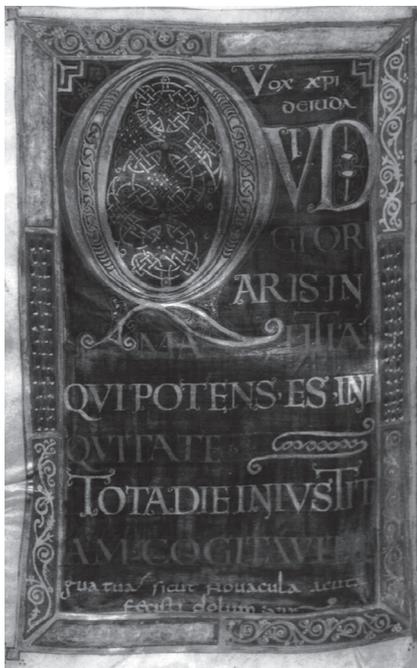
## 《ダグルフ詩編》

*Dagulf-Psalter*, Wien, Österreichische Nationalbibliothek, Codex Vindobonensis 1861

安藤さやか

### 作品概要

名称	《ダグルフ詩編》あるいは《カール大帝の黄金詩編》
所蔵先	ウィーン、オーストリア国立図書館 Codex Vindobonensis 1861
サイズ	190×120-122 mm、161 葉 (20 帖 / 2×binio + 17×quaternio + 1×quinternio)、2 コラム形式、23 行
言語・書体	ラテン語、カピタリス・クワドラータ(インキピット頁)、カピタリス・ルスティカ(イニシアル頁)、アンシャル体(詩編標題)、カロリング小文字(詩編本文)
内容	献呈詩 (fol. 4) プロレゴメナ (fols. 5-24)、『ガリア詩編 <i>Psalterium Gallicanum</i> 』 (fols. 25-145)、カンティカ (fols. 146-158)
挿絵	インキピット頁 1 点、イニシアル頁 3 点、装飾付きイニシアル 3 点
注文主	カール大帝 (747-814) によって教皇ハドリアヌス 1 世 (772-795) の為に注文された。
来歴	Kirchenschaz der Abtei Limburg in der Pfalz / Bischof Einhard von Speyer / Heinrich VI., Erzbischof Adalbert von Bremen (1065?) / Dom zu Bremen (-1650?) / Wiener Hofbibliothek (1666?-)
制作年代	783-795 年頃
制作地	アーヘン/カール大帝宮廷派
写字生	ダグルフ、デオダトウス
挿絵画家	ダグルフ、デオダトウス
ファクシミリ	<i>Der goldene Psalter : Dagulf-Psalter : Vollständige Faksimile-Ausgabe im Originalformat von Codex Vindobonensis 1861, facsimile &amp; commentarium</i> , (Codices selecti phototypice impressi, v. 69), Graz, Akademische Druck- u. Verlagsanstalt, 1980.



「イニシアル Q」 fol. 67v

### 作品解説および先行研究

ウィーンのオーストリア国立図書館に所蔵される Cod. Vind. 1861 写本は、全編が金字で書かれていることから《黄金詩編》、或いは残された写字生の名を冠し《ダグルフ詩編》と呼ばれる、カロリング朝期の詩編

写本である。図像を一切持たない小型写本であるものの、金銀による文字装飾や紫羊皮紙を模した緋紫色のイニシアル頁といった類稀なる装飾によって、カール大帝宮廷派の代表写本の一つとして数えられている。

本作品は古書体学及びミニアチュールの様式比較の見地から、カール大帝宮廷派最初の豪華写本として名高い《ゴデスカルク福音書抄本》(パリ、国立図書館 Ms. nouv. acq. lat. 1203) より少し後の制作とされた<sup>1</sup>。加えて、冒頭の献呈詩 (fol. 4) からは、本写本がカール大帝の注文で教皇ハドリアヌス1世に贈る為に、ヨークのアルクインとも親交があったダグルフという名の写字生によって制作されたこと、及びカールの二番目の妻ヒルデガルト (783 年没) への献辞が記されているが<sup>2</sup>、ローマには送られなかったことから、本作品の制作年はハドリアヌス1世の没年以前の 783-795 年頃で概ねの一致を見ている<sup>3</sup>。詩編テキストはヒエロニムスによるラテン語詩編校訂の第二ヴァージョンである『プサルテリウム・ガリカヌム *Psalterium Gallicanum*』を採用しており、全 150 編を三分割した各冒頭の第 1 編、51 編、101 編に全頁大ミニアチュールが挟まれている。詩編テキストはカロリング期の詩編写本と互いに類似しているが、アイルランドの詩編写本に由来する影響も指摘されている<sup>4</sup>。本写本には制作当時は象牙装丁板が施されていたと考えられ、現在はルーヴル美術館に所蔵される 2 枚の象牙浮彫 (パリ、ルーヴル美術館 MR 370-371) も、写字生ダグルフの手に帰されている<sup>5</sup>。

19 世紀末には既に本作品は、美術史、古書体学、写本学及び文献書誌学それぞれの知見から、他の 7 写本及び 1 点の写本断片と共に、カロリング朝期写本画の一流派を形成することが指摘され、そのうちの 1 点でありカール大帝の従姉妹であったアダの為に注文された写本の名から「アダ派」と呼ばれてきた<sup>6</sup>。即ち先述の《ゴデスカルク福音書抄本》、《サン・マルタン・デ・シャン福音書》(パリ、アルセナル国立図書館 Ms. 599)、《アダ福音書》(トリーア、市立図書館 Cod. 22)、《ハーレー福音書》(ロンドン、大英図書館 Ms. Harley 2788)、《サン・リキエ福音書》(アブヴィル、市立図書館 Ms. 4)、《サン・メダール・ド・ソワッソン福音書》(パリ、国立図書館 Ms. lat. 8850)、《ロルシュ福音書》(アルバ・ユリア、Batthyaneurn II. 1 / ローマ、ヴァティカン図書館 Ms. Pal. lat. 50)、並びに、《コットン・クラウディウス写本断片》(ロンドン、大英図書館 Ms. Cotton Claudius B. V.) であり<sup>7</sup>、この写本グループの近似性は今日まで支持されている。これらの写本グループを美術史の立場からより詳細に分析し、カロリング朝写本画のコーパスの一部として出版したのが、W. ケラーである<sup>8</sup>。彼は《ゴデスカルク福音書抄本》と本作品との献呈詩から、写字生及び注文主カールの名がはっきりと読み取れること、及び多くの写本がアーヘンの宮廷で制作されたと考えられることから、より正確な呼称として「カール大帝宮廷派」を提唱した<sup>9</sup>。この改称は、1965 年にアーヘンで開催されたカロリング朝芸術の展覧会に於いて、これらの写本群のうちの多くがまとまった形で出展された際に、C. ノルデンファルクらによって引き継がれ<sup>10</sup>、宮廷派写本は同時期の「宮殿派(あるいは「新宮廷派」)」写本群<sup>11</sup>と並ぶ、カロリング・ルネサンスを代表する写本グループとして位置付けられた。

カロリング朝における復興運動、即ち所謂カロリング・ルネサンスを代表するカール大帝宮廷派の豪華写本の一つでありながら、本作品のミニアチュールには図像が一切含まれない為、美術史上の観点からの研究は決して多くは無い。本作品の殆ど唯一のモノグラフィーは、1980 年に刊行されたファクシミリ、K. ホルターによるコメントリーである<sup>12</sup>。ホルターは美術史、古書体学、写本学、文献書誌学等、各分野からの従来の研究を総合的に再検討し、特に成立年代と制作地に関する議論を再確認しただけではなく、カロリング朝詩編挿絵の中での本作品の位置付けを試みた。インスラー写本の影響を強く受けた初期カロリング朝作品から、カール禿頭王 (823-877) の世代に至るまでの計 15 点の詩編写本との挿絵構造の比較を

通じて、彼は《ダグルフ詩編》がインスラー芸術の要素を取り入れつつ、カロリング朝宮廷派の詩編写本に共通する基礎的な構造を備えた最初期の作品として位置付けたが、それはあくまでも一般的な類似として留められており、本作品が直接、後のカロリング朝詩編写本の手本となり得たかについては名言を避けている<sup>13</sup>。

一方、本作品をその装飾文様の綿密な分析を通じて、宮廷派写本に於ける位置付けを試みたのが、G. デンツィンガーである<sup>14</sup>。彼は《ダグルフ詩編》を含めた現存するカール大帝宮廷派写本 8 点の装飾文様を比較し、これまでケーラーを中心として主張されてきた、宮廷派写本の血縁関係を改めて確認している。加えて、より詳細な装飾分析によって、《ダグルフ詩編》が動物文を持たずジェムを模した装飾文や植物文様、メアンダーに似た帯紐文様を多く持つ等、中でも《ハーレー福音書》及び《サン・リキエ福音書》と類似していること<sup>15</sup>、及び、これらの装飾文様が従来の研究で述べられてきたインスラーのものだけではなく、地中海地方を起源とする要素が多分に含まれていることが主張された<sup>16</sup>。即ち、宮廷内の写本工房における所謂〈バルパロイ〉芸術と地中海芸術との融合であり、本作品がまさにカロリング・ルネサンスを体現していると言えるだろう。更にデンツィンガーによれば、本作品を含む宮廷派写本は宮殿派写本とともに後代の写本画、特にオルレアン、トゥール、フルーリー、ザルツブルク、マイnitz、フルダといった、東フランク王国のスクリプトリウムで制作された豪華写本に多大な影響を与え、オットー朝やロマネスク期の写本芸術に於いてもその残響が見られることから<sup>17</sup>、初期から盛期中世の写本画に於いてカール大帝宮廷派写本の占める重要性が浮彫りになるだろう。

2014 年にはカール大帝没後 1200 年を記念した大規模な展覧会に出展され、展覧会カタログの寄稿論文に於いて H. ヴォルター＝フォン・デム・クネーゼベックは、ゴデスカルクと並びその名が判明している写生字であり写本画家であるダグルフについて、象牙浮彫による装丁板を含めてその芸術性に焦点を合わせている<sup>18</sup>。本作品は豊かな装飾文様を持つ写本でありながら、従来の研究の多くが文献学的・写本学的見地に立ったものであり、工芸作品との比較を通じた美術史的分析は殆どなされてこなかった。更に、写本装丁板と写本本体とが分かれて所蔵されていることもあり、同じ芸術家の手によるものでありながら、これら二つが同時に論じられることも稀であった。《ダグルフ詩編》は、象牙浮彫による装丁板と写本彩飾の多くが、今日まで名前の伝わる一人の芸術家によって制作された、数少ないカロリング期の作例である。写本画家ダグルフに関する史料研究、及び装丁板等の工芸作品を関連づけた本写本の美術史的な研究は、写本画のみならずカロリング朝芸術、特に宮廷芸術全般の研究に対して、大きな役割を果たすであろう。

## 註

- 1 KOEHLER, Wilhelm: *Die Hofschule Karls des Großen, Die karolingischen Miniaturen* 2, Bd. 1, Berlin 1958, S. 42.
- 2 献呈詩全文のトランスクリプトは以下で確認出来る。*Poetae Latini aevi Carolini*, Tom. 1, Monumenta Germaniae historica inde ab anno Christi quingentesimo usque ad annum millesimum et quingentesimum, Poetae Latini medii aevi, Weidemanns, 1964, pp. 91-92.
- 3 BISCHOFF, Bernhard: Panorama der Handschriftenüberlieferung aus der Zeit Karls des Grossen, in: BRAUNFELS, Wolfgang (Hrsg.): *Karl der Große. Lebenswerk und Nachleben*, Bd. 2, Das Geistige Leben, Düsseldorf 1965, S. 234; NORDENFALK, Carl: Die Buchmalerei, in: BRAUNFELS, Wolfgang (Hrsg.): *Karl der Grosse. Werk und Wirkung*, Katalog der Ausstellung in Aachen, Aachen 1965, S. 249-250, Nr. 413; HOLTER, Kurt: *Der goldene Psalter: Dagulf-Psalter: Kommentar zur vollständigen Faksimile-Ausgabe im Originalformat von Codex Vindobonensis 1861 der Österreichischen Nationalbibliothek*, Codices selecti phototypice impressi, v. 69, Graz 1980, S. 66-72.
- 4 FISCHER, Bonifatius: Bibeltext und Bibelform unter Karl dem Großen, in: BRAUNFELS, Wolfgang (Hrsg.): *Karl der Große. Lebenswerk und Nachleben*, Bd. 2, Das Geistige Leben, Düsseldorf 1965, S. 194.

- 5 象牙浮彫装丁板については以下を参照。GOLDSCHMIT, Adolf: Elfenbeinreliefs aus der Zeit Karls des Großen, in: *Jahrbuch der Königlichen preußischen Kunstsammlungen*, Bd. 26, 1965, S. 47ff; KUDER, Ulrich: Illuminierte Psalter von den Anfängen bis um 800, in: BÜTTNER, Frank O. (ed.): *The Illuminated Psalter. Studies in the Content, Purpose and Placement of its Images*, Turnhout 2004, S. 118ff.
- 6 MENZEL, Karl (Hrsg.): *Die Trierer Ada-Handschrift*, Publikation der Gesellschaft für Rheinische Geschichtskunde 6, Leipzig 1889.
- 7 この他に宮廷派写本として、《ゴデスカルク福音書抄本》と同時期にヒルデガルトの為に制作された、今日では失われた詩編写本の存在が指摘されている。MÜTHERICH, Florentine: Die Erneuerung der Buchmalerei am Hof Karls des Großen, in: STIEGEMANN, Christoph / WEMHOFF, Matthias (Hrsg.): *799 Kunst und Kultur der Karolingerzeit. Karl der Große und Papst Leo III. in Paderborn*, Beiträge zum Katalog der Ausstellung in Paderborn 1999, S. 561.
- 8 KOEHLER 1958.
- 9 KOEHLER 1958, S. 7.
- 10 NORDENFALK 1965, S. 224ff. 更にこの改称は、ケーラーと並ぶカロリング朝写本画の大家であるミュテリッヒによっても支持されている。MÜTHERICH 1999, S. 563.
- 11 KOEHLER, Wilhelm: *Die Gruppe des Wiener Krönungs-Evangeliars*, Die Karolingischen Miniaturen 3, 2 Bde., Berlin 1960.
- 12 HOLTER 1980.
- 13 HOLTER 1980, S. 86-87.
- 14 DENZINGER, Götz: *Die Handschriften der Hofschule Karls des Grossen. Studien zu ihrer Ornamentik*, Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde der Philosophischen Fakultät der Rheinischen Friedrich-Wilhelms-Universität zu Bonn, Bonn 2001.
- 15 DENZINGER 2001, S. 82; 194.
- 16 DENZINGER 2001, S. 83.
- 17 DENZINGER 2001, S. 84; DENZINGER, Götz: Die Handschriften der Hofschule Karls des Großen, Bemerkungen zu ihrem Bildschmuck und ihrer Ornamentik, in: Van den BRINK, Peter / AYOOGHI, Sarvenaz (Hrsg.): *Karl der Grosse. Karls Kunst*, Katalog der Ausstellung in Aachen, Bd. 3, Dresden 2014, S. 110.
- 18 WOLTER-von dem KNESEBECK, Harald: Godescalc, Dagulf und Demetrius. Überlegungen zu Buchkünstlern am Hof Karls des Großen und ihrem Selbstverständnis, in: Van den BRINK, Peter / AYOOGHI, Sarvenaz (Hrsg.): *Karl der Grosse. Karls Kunst*, Katalog der Ausstellung in Aachen, Bd. 3, Dresden 2014, S. 31-45.

#### [図版出典]

Van den BRINK, Peter / AYOOGHI, Sarvenaz (Hrsg.): *Karl der Grosse. Karls Kunst*, Katalog der Ausstellung in Aachen, Bd. 3, Dresden 2014.

## 挿絵一覧表

註) 本挿絵表の装飾文様は DENZINGER 2001 を典拠とし、訳出に際しては J. ユベール / J. ボルシェ / W. F. フォルバツハ著 吉川逸治・前川誠郎・森洋訳『カロリング朝美術』（人類の美術）東京、新潮社 1970 年を参照したが、一部筆者試訳を含む。

### [1- 全頁大ミニアチュール]

psalm	fol.	initial	装飾モチーフ	
			DENZINGER 2001 に基づく	和訳
インキピット・ページ	24v		Doppelaxtmuster, Fächermuster, vier Gemmen mit jeweils drei Figuren als Eckmotiv	二重斧文、扇子文、四隅のジェムにそれぞれ三人の人物像
第 1 編	25	B	Kreise, Spitzovale, Dreierwirbel, Doppelaxtmuster, Flechtmuster für den Rahmen, Flechtband mit spitzen Schlingen und weiteren Flechtbandmotiven, Flechtband-motive alternierend mit Streifenabschnitten, Knickband, Kreuzblüte, Stauede	円、鋭角の楕円、三巴の渦巻文、二重斧文、緑取りの組紐文、鋭角の輪その他の組紐文モチーフのある組紐文、縞模様を伴う組紐文、屈折する帯紐、十字形花文、植物文
第 51 編	67v	Q	Punkte, Dreipunkte, Punkttraube, Dreierwirbel, Triqueraknoten, Flechtband mit spitzen Schlingen und weiteren Flechtbandmotiven, Fadengeflecht, Kreuzblüte, Lorbeerblätter, Spiralranke, Ranke mit Knospen und gefiederten Blättern, Weinranke, Fisch	点、三点、房状の点、三巴の渦巻文、三角結節文、組紐文、鋭角の輪その他の組紐文モチーフのある組紐文、糸組紐、十字形花文、月桂樹の葉、螺旋唐草、芽のある羽状の葉、葡萄唐草、魚
第 101 編	108v	D	Punkttraube, Pelten, Dreierwirbel, Reihe aus Quadraten mit unterschiedlichen Füllmotiven, Rauten mit Diagonallinien, Schlüsselbart, Flechtband mit spitzen Schlingen und weiteren Flechtbandmotiven, Fadengeflecht, Linienblüte, Sternblüten, Vogelköpfe	房状の点、ベルタ文、三巴の渦巻文、種々のモチーフによって充填された四角の列、斜線のある四角形、鋭角の輪その他の組紐文モチーフのある組紐文、糸組紐、線状の花、星形花、鳥頭

### [2- イニシアル]

psalm	fol.	initial	装飾モチーフ	
			DENZINGER 2001 に基づく	和訳
第 109 編	120v	D	Fadengeflecht	糸組紐
第 118 編	125v	B	Fadengeflecht	糸組紐
イザヤのカンテイクム	146v	C	Fadengeflecht	糸組紐